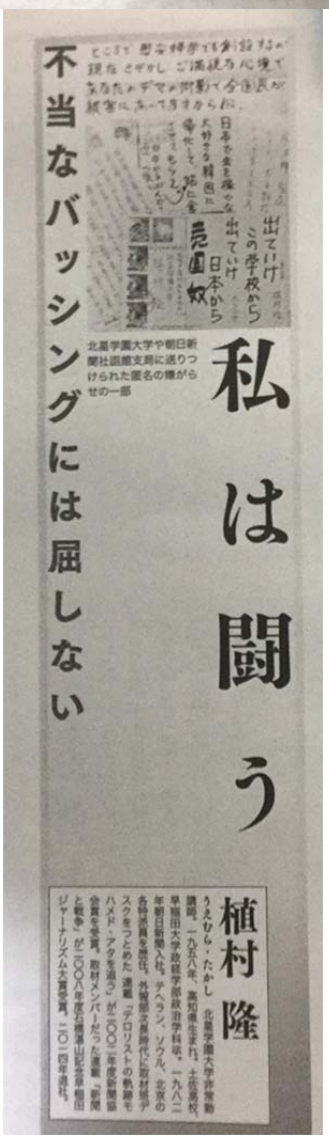
# 不当なバッシングには屈しない

右の写真は『ジャーナリスト』2015 年 1 月 25 日号による。「名誉回復と人生の再生に向けて闘っていきます。私は捏造記者ではありません。不当なバッシングに屈しません」― 元朝日新聞記者で北星学園大（札幌市）の非常勤講師の植村隆さん(56)は、こう力強く決意を述べた。

1月9日に開かれた裁判提訴報告集会で挨拶する植村隆さん

植村さんは、旧日本軍による韓国従軍慰安婦問題で自分を捏造記者と烙印を押した週刊文春の発行元である文藝春秋と、コメントや自らの論文でそれを言い続けてきた東京基督教大の西岡力教授を名誉棄損で 1 月 9 日、合計 1650 万円の損害賠償などを求めて東京地裁に提訴した。

提訴後に「植村さん名誉棄損裁判　提訴報告集会　慰安婦問題は捏造じゃない！」と書かれた横断幕を掲げた参院議員会館講堂で集会が開かれ、参集した 300 人を超える人たちを前に植村さんが報告した。「関係ない家族まで巻き込まれた。とくに 17 歳の娘の顔写真がネットで流され、罵詈雑言を浴びせられた。時間がたつにつれてネット上で悪質メールがどんどん増え、まるで白いシーツに黒いシミが広がっていくような感じを受けた。娘は気丈に振舞っていたが、後日、娘を事情聴取した女性弁護士から“話の途中にポロポロと涙を流していた”と聞かされ、つらかっただろうなと思った。」


不当なバッシングには屈しない

私は闘う

北星学園大学や朝日新聞社函館支局に送りつけられた匿名の嫌がらせの一部

植村隆

下の写真は『世界』2015 年 2 月号である。上部に北星学園大や朝日新聞社函館支局に送りつけられた匿名の嫌がらせの一部が載っている。ここで植村さんは週刊文春とのやりとり、不当なバッシングについて詳しく書いている。「ネットによる誹謗中傷で圧殺されそうになった私だが、ネットによる人の輪で救われる道が開けてきた。---- 私は一人ではない。」と締めくくる。

フランスの新聞社を襲ったテロなどにより、「表現の自由」が世界的に大きな問題になっている。「表現の自由」を脅かされているのは、他人事ではない。植村さんをはじめ一連の朝日新聞バッシングでも、共通する問題がみられる。「言論暴力」への関心をもっと高めていきたい。

（2015 年 1 月 30 日）